

あたらしくはいった本 (令和4年5月 貸出開始資料から)

- 小説 くるまの娘(宇佐見りん/著) 花散る里の病棟(帚木蓬生/著) 天下を買った女(伊東潤/著) 競争の番人(新川帆立/著) 戴天(千葉ともこ/著) パパイア・ママイヤ(乗代雄介/著) 布武の果て(上田秀人/著) マイクロスパイ・アンサンブル(伊坂幸太郎/著) 夢伝い(宇佐美まこと/著) 情熱の砂を踏む女(下村敦史/著) ハロー・グッドバイ(小路幸也/著) ルコネサンス(有吉玉青/著) 笠野頼子発禁小説集(笠野頼子/著) 印(アーナルデュル・インドリダソン/著)
- 随筆・詩などの文学 今日を楽しく生きる(瀬戸内寂聴/著) 厨に暮らす(宇多喜代子/著) 大人への手順(伊集院静/著) 愉快なる地図(林芙美子/著) 人間とマンボウ(北杜夫/著)
- その他の本 雲仙普賢岳噴火回想録(太田一也/著) 日本の合戦解剖図鑑(本郷和人/著) 今日のうどん(満留邦子/著) オペラのひみつ(岸純信/著) 今日から減酒!(倉持穰/著)



『くるまの娘』
宇佐見りん
河出書房新社



『花散る里の病棟』
帚木蓬生
新潮社



『天下を買った女』
伊東潤
KADOKAWA

●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、来館の際はマスク着用などの協力をお願いします。

みんなの としょかん



市民図書館

TEL (921) 4646

FAX (921) 4896

http://www.library.dazaifu.fukuoka.jp/

としょかんカレンダー

令和4年	日	月	火	水	木	金	土
7						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24/31	25	26	27	28	29	30

○印の日は、お休みです。

開館時間 午前10時から午後6時まで

金曜・土曜(祝日除く・太字の日)は午後7時まで

筑紫氏、隈村を返還する

太宰府天満宮社家の満盛院の領地をめぐる、戦国時代に引き起こされたトラブルに関する色々なエピソードを、これまで数回にわたって紹介しています。中でも大永6(1526)年には複数ののもめ事が起きており、すでに取り上げた筑前国早良郡の戸栗・重富(本紙昨年10月号No.1001・本年1月号No.1004)以外にも、御笠郡の隈村(現筑紫野市大字隈周辺)をめぐる筑紫氏と争っています。

満盛院は、前年の同5(1525)年以来、領地の隈村12町の地を返還するよう、たびたび筑紫氏に訴えていました。ちょうどこの頃、満盛院は筑前国守護の大内義興に訴えて、各地の領地の安堵(領有を承認すること)を取り付けています。筑紫氏のものとなっていた隈村についても、これを機に大内氏の威光を背景に、取り戻そうとしたのだと思われまます。これに対し筑紫氏は、当主の秀門は返還に納得したけれども、実行しないまま引き延ばしてました。その理由は、後室(先代の当



主満門の妻か)がこれに従わなかったからとされています。筑紫氏は同4(1524)年に当主満門が少弐氏の重臣馬場頼周に殺害され、秀門が跡を継いでまだ日が浅かったため、家の中が一つにまとまっていないう状態だったようです。ともあれ何とか同意を得て、隈村は満盛院に返されることになりました。

ところが、隈村をめぐる満盛院と筑紫氏の争いは、5年後の享祿4(1531)年に再燃しています。この時は筑紫一族の尚門が当事者で、同じ肥前国の龍造寺左衛門佐もこれに関与していたようです。そのため満盛院からの訴えを受けて、筑紫氏の当主正門と、水ヶ江龍造寺氏の当主家門の双方から、隈村を返還すると満盛院に伝えられています。その後も隈村をめぐる満盛院と筑紫氏の争いは解決せず、たびたび繰り返されていきました。

【バックナンバーはこちら】

ページID 7241

太宰府市公文書館

大塚 俊司